



联合国
粮食及
农业组织

FOOD AND
AGRICULTURE
ORGANIZATION
OF THE
UNITED NATIONS

ORGANISATION
DES NATIONS
UNIES POUR
L'ALIMENTATION
ET L'AGRICULTURE

ORGANIZACION
DE LAS NACIONES
UNIDAS PARA
LA AGRICULTURA
Y LA ALIMENTACION

منظمة
الغذية
والزراعة
للأمم
المتحدة

Liaison Office in Japan

5F Yokohama International Organizations Center, Pacifico-Yokohama,
1-1-1, Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama 220-0012, Japan

Tel. (045) 222-1101
Facsimile: (045) 222-1103
E-Mail Address: FAO-LOJA@FAO.ORG

F A O (国際連合食糧農業機関) 日本事務所
2009年10月14日

LOJAPR09/23-No. 145

プレスリリース

経済危機が世界の飢餓に苦しむ人々に深刻な影響を及ぼす 2009年の飢餓人口は10億2,000万人-FAOの飢餓報告書が発表される

2009年10月14日、ローマ-14日発表された国連食糧農業機関(FAO)と世界食糧計画(WFP)の報告書によれば、世界的経済危機によって引き起こされた飢餓人口の急増は、開発途上国の最も貧しい人々に最も深刻な影響を与え、脆弱な世界の食料システムが緊急に改革される必要のあることを明らかにした。

食料危機及び経済危機の組み合わせが、世界各地の飢餓人口を記録的なレベルに押し上げた-FAOの推定によれば、10億人以上の人が栄養不足である。

世界の栄養不足人口のほとんどすべては、開発途上国に暮らす。今年 WFP と共同で発行された FAO の年次飢餓報告書「世界の食料不安の現状」によれば、アジア・太平洋では推定6億4,200万人、サハラ以南アフリカでは2億6,500万人、ラテンアメリカ・カリブ海では5,300万人、中東・北アフリカでは4,200万人、そして先進国では1,500万人が慢性的な飢餓に苦しんでいる。報告書は2009年10月16日に予定されている世界食料デーを前に発表された。

十年に及ぶ傾向

最近の危機以前においても、世界の栄養不足人口はこの十年、ゆっくりとではあるが確実に増加を続けていた、と報告書は述べている。1970年代初頭の世界的な食料危機の後の農業への投資の増加が主因となり、1980年代及び1990年代初頭には、慢性的な飢餓の削減への順調な進捗があった。しかし、1995-97年及び2004-06年の間に、農業に向けた政府開発援助(ODA)が大幅に減少し、ラテンアメリカ・カリブ海以外の全ての地域で飢餓人口が増加した。ラテンアメリカ・カリブ海地域でも、食料・経済危機の結果、飢餓人口削減への前進は、後に、覆された。

価格が低く、経済が繁栄している時期にも飢餓人口が増加し、価格が急上昇して経済が低迷する時期には非常に急増するということは、世界の食料安全保障の統治制度の脆弱性を表す、とFAOは述べた。

「世界の指導者たちは、金融・経済危機に力強く反応し、短期間に何十億ドルという資金を動員することに成功した。同じように力強い行動が、今、飢餓と貧困と闘うために必要である」とFAO事務局長のジャック・ディウフは述べた。「飢餓人口の増加は耐えがたいものである。我々は、飢餓を消滅させるための経済的及び技術的手段を持っており、欠けているのは飢餓を永遠に撲滅しようという強い政治的

意思なのだ。健全な農業部門が、飢餓と貧困を克服するためだけでなく、世界全体の経済成長及び平和と安定のために不可欠であるため、開発途上国における農業への投資が鍵なのである。」

「我々は、食料安全保障に取り組もうとする新たなコミットメントを称賛する、しかし、迅速な行動が必要なのである。21 世紀の今、世界の人口の約 6 人に一人が飢餓に苦しんでいるというのは受け入れることのできない状況である」とジョゼット・シーラン国連世界食糧計画事務局長は加えて述べた。「世界で、いままでにないほど多くの人々が飢餓に苦しんでいる時に、記憶に残る限り最も少ない食料援助しかない。我々は緊急の飢餓対策に必要なことは何かを知っている。必要なのはこの仕事を遂行するための資源と国際的なコミットメントなのだ。」

貧しい世帯への更なる打撃

複数の要因が重なり、現在の危機で開発途上国の貧しい世帯が特に深刻な影響を受けることになった。

第一に、危機が世界の大部分に同時に影響があるため、通貨の切り下げ、借り入れ、政府開発援助の利用の増加または移住者からの送金など従来の対処メカニズムで対応できる範囲が狭まったことがある。

第二に、経済危機は、食料不安に最も脆弱な貧しい人々が、食料危機で疲弊し、対処戦略を使い切ったところに加えて発生した。国内の食料価格の上昇、所得と雇用の減少に直面し、既に資産を売却し、食料消費を抑え、保健と教育のような必需項目の支出を削減したため、これらの家庭では困窮と飢餓・貧困の罠に更に深く陥いるリスクにさらされている。

乗りかけた船

第三の要因として、この危機が過去のものとは違う点として、開発途上国が 20 年前に比べ、金融的及び商業的に世界経済により統合されてきており、国際市場の変化により脆弱になっていることが挙げられる。

多くの国は貿易及び資金流入の全面的な減少、輸出収入、海外投資、開発援助と送金の下落を体験した。これは雇用機会を削減するのみならず、政府が成長を促進するプログラム及び困窮者への支援に調達できる現金の削減にもつながった。

ラテンアメリカにおける上位 17 の国では、例えば、2007 年に 1、840 億ドルの資金流入があったが、2008 年には凡そ半分の 890 億ドルとなり、更に 2009 年にはその半分の 430 億ドルとなる見込みである、と報告書は述べた。消費が抑制されなければならない、低所得食料不足諸国にとっては、消費の調整とは、必要な食料及び保健機材や医薬品などその他物品の輸入を削減しなければならないことを意味する。

報告書には、WFP がアルメニア、バングラデシュ、ガーナ、ニカラグア及びザンビアの 5 カ国でまとめたケーススタディも含まれ、各世帯がいかに送金の減少やその他の経済減退の影響を受けているか、また各国政府が農業及びインフラへの投資そしてセーフティネットの拡大でいかに危機に対応しているかを示している。

これらの政策介入は、生命と家族を救う手助けとなる、と報告書は述べているが、危機の深刻さに鑑みると、更なる施策が必要である。

FAOとWFPは、持続的な解決策として、突然の食料不足に起因する短期の緊急の飢餓と、極度の貧困の兆候であるより長期的な慢性的飢餓の双方に対応するツイン・トラック・アプローチの推奨を続けている。

「小規模農家は、生産性及び生産高を向上させるために、高品質種子、肥料、飼料及び技術へのアクセスが必要である」とディウフは述べた。「そして、政府は、各国の農業部門が危機に際して、より生産的、かつ、強靱となるような経済的及び政策的な手段を必要としている。」

英文 URL: <http://www.fao.org/news/story/en/item/36207/icode/>